

国内最大級の廃棄物焼却所

エネルギープラザ竣工

伊賀・三重
中央開発 11月から営業運転

知事ら祝う

【伊賀】伊賀市予野の廃棄物処理業三重中央開発（金子文雄社長）は六日、敷地内に建設していた廃棄物複合型リサイクル施設「エネルギープラザ」の竣工式を開き、川崎二郎衆院議員、鈴木英敏知事、地元住民ら約三百二十人が参加し祝った。廃棄物焼却能力は既存分と合わせて国内最大級となる。九月末から試運転を経て、十一月から営業運転を開始する予定。



同施設（敷地面積四万一千平方メートル）は一般廃棄物、産業廃棄物の焼却施設、焙焼施設、乾燥施設、炭化施設、四千キロワットの発電能力を持つ発電施設などがある。焼却処理能力は二基の焼却炉で日量四百七十四ト。既設の施設の処理能力と合わせると一千二百一十トとなり、国内最大級の規模という。焼却に伴い生成される熱エネルギーで発電するほか、熱エネルギーを蓄熱タンクに貯蔵して熱源として外部へ運ぶ「トランスヒートコンテナシステム」も実現した。

同システムの実現により、蓄熱タンクの小型化にも成功。従来は大型トレーラーでしか運べなかったが、十トトラックや廃棄物収集車でも運べるようになった。同市内の温泉施設で実証実験を行う。

鈴木知事は「エネルギープラザ竣工したエネルギープラザの廃棄物焼却施設は伊賀市予野の三重中央開発で

が不足の事態になった時など、活用できる分散型の施設ができるのはありがたい」と竣工を祝った。
（山下三男）